

# 政治経済学 I

## 第12回

### 独裁制と民主制

2016年1月13日

矢内 勇生

# 今日の内容

- 政治体制
- 民主的体制（デモクラシー）とは？
- 独裁制（非民主的体制）と民主制
- 独裁制から民主制へ：近代化論の説明

# 政治体制とは？

- 政治体制 (political regime) とは、「政治権力が社会内で広範な服従を確保し、安定した支配を持続するとき、それを形づくる制度や政治組織の総体」（山口定『政治体制』）
- （基本的には）国家を分析単位として考える

# 民主制

- democracy
- 民主的体制
- 民主制
- 民主政
- 民主主義
- 民主的な国家 (democracies)

# 独裁制（非民主的体制）とは？

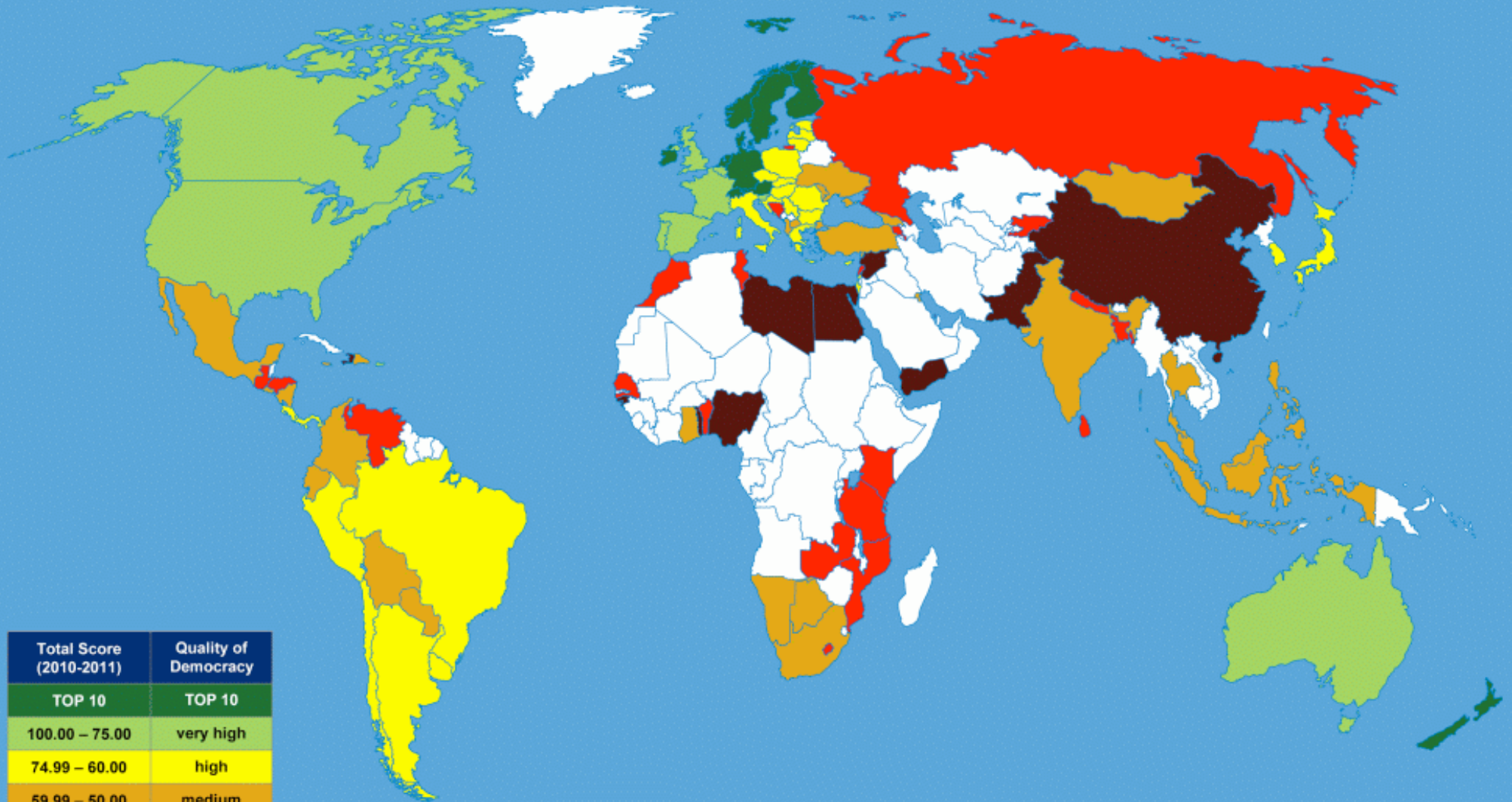
- autocracy, dictatorship, nondemocracy
- 民主体制の要件を欠く制度
  - 政治官僚への自由な競争がない
  - 市民が政治に自由に参加できない
- 支配者が失政に対する責任をとらない
- 様々な非民主的体制が存在する

# 民主的体制と非民主的体制

- 民主的國家は増えている

	民主的國家の数	非民主的國家の数	國家の総数	民主的國家の割合
1922	29	35	64	45%
1942	12	49	61	20%
1962	36	75	111	32%
1973	30	92	122	35%
1990	58	71	129	45%
2012	117	78	195	60%

# DEMOCRACY RANKING 2012: THE QUALITY OF DEMOCRACY IN THE WORLD



Total Score (2010-2011)	Quality of Democracy
<b>TOP 10</b>	<b>TOP 10</b>
100.00 – 75.00	very high
74.99 – 60.00	high
59.99 – 50.00	medium
49.99 – 40.00	low
39.99 – 0.00	very low
NOT AVAILABLE	(n.a.)

[www.democracyranking.org](http://www.democracyranking.org)

© David F.J. Campbell / Paul Pözlbauer / Thorsten D. Barth / Georg Pözlbauer (2012)

# 独裁的（非民主的）体制

- 2012年現在でも、40%の国家は独裁的（非民主的）
- 2009年時点で、世界人口66億人のうち、30億人は民主的国家に居住、残りの36億人は独裁的国家に
- 約40%の国家で、市民に選ばれていない支配者が「物理的暴力」を独占し、36億人の市民に対してそれを恣意的に行使している



# 民主的国家 (democracies) と 独裁的国家 (nondemocracies)

- 政治学でよく見られる研究課題
  - ある国は民主的で、他の国が独裁的なのはなぜか
  - 民主制の維持にはどのような条件が必要か
  - 民主制と独裁制では、どちらの方が経済発展しやすいか
  - 経済的な条件によって政治体制が決まるか？

# 近代化論

## modernization theory

- 経済発展すると、民主的体制を採りやすくなる
- 多くの国で経済が発展する
- ➔ デモクラシーの国が増える

# ロストウの近代化論

- 国は、段階を踏んで発展する

1. 伝統的社会
2. 離陸先行期
3. 離陸
4. 成熟化
5. 高度大量消費



Walt Whitman Rostow  
(1916-2003)

# 欧米モデルへの収斂

- 現在貧しい国は「発展途上」
- アメリカやヨーロッパなどの既に発展した国とは、発展の段階が違うだけ
- 最終的にはすべての国が、アメリカやヨーロッパのような先進国（高度大量消費社会）になる

# リプセットの近代化論

- 国が「伝統的」段階から「近代的」段階に進むと、ふさわしい政治体制も変わる
  - 伝統的國家には独裁制が向いているが、経済発展した國家には民主制がふさわしい
- ➡ 国が経済発展すると、民主的体制を採るようになる



Seymour Martin Lipset  
(1922-2006)

# 近代化論によると

- 経済発展は
    - a) その国が民主体制になること
    - b) その国の民主体制が継続する（民主制が崩壊し、独裁制になることを防ぐ）こと
- の両方に貢献する

# 近代化論のまとめ

伝統的社会

近代的社会

農業：大



農業：小

産業：小



産業：大

サービス：小



サービス：大

独裁制



民主制

# 実際に世界を観察してみる

- 経済発展によって民主体制が増えているかどうか、実際のデータによって確かめる



# 経済発展の測り方

- 一人当たりGDP（購買力平価）を利用
  - GDP = gross domestic product, 国内総生産
  - 一人当たり = per capita : 国のGDPを人口で割ったもの
  - 購買力平価 = ppp (purchasing power parity) : 物価を調整したもの

# 最近の一人当たりGDP (ppp)

- 2011-14年のデータ (USD)

1位：カタール (140,649)

...

2位：ルクセンブルク (97,662)

30位：韓国 (34,356)

...

...

9位：アメリカ合衆国 (54,692)

81位：中国 (13,217)

...

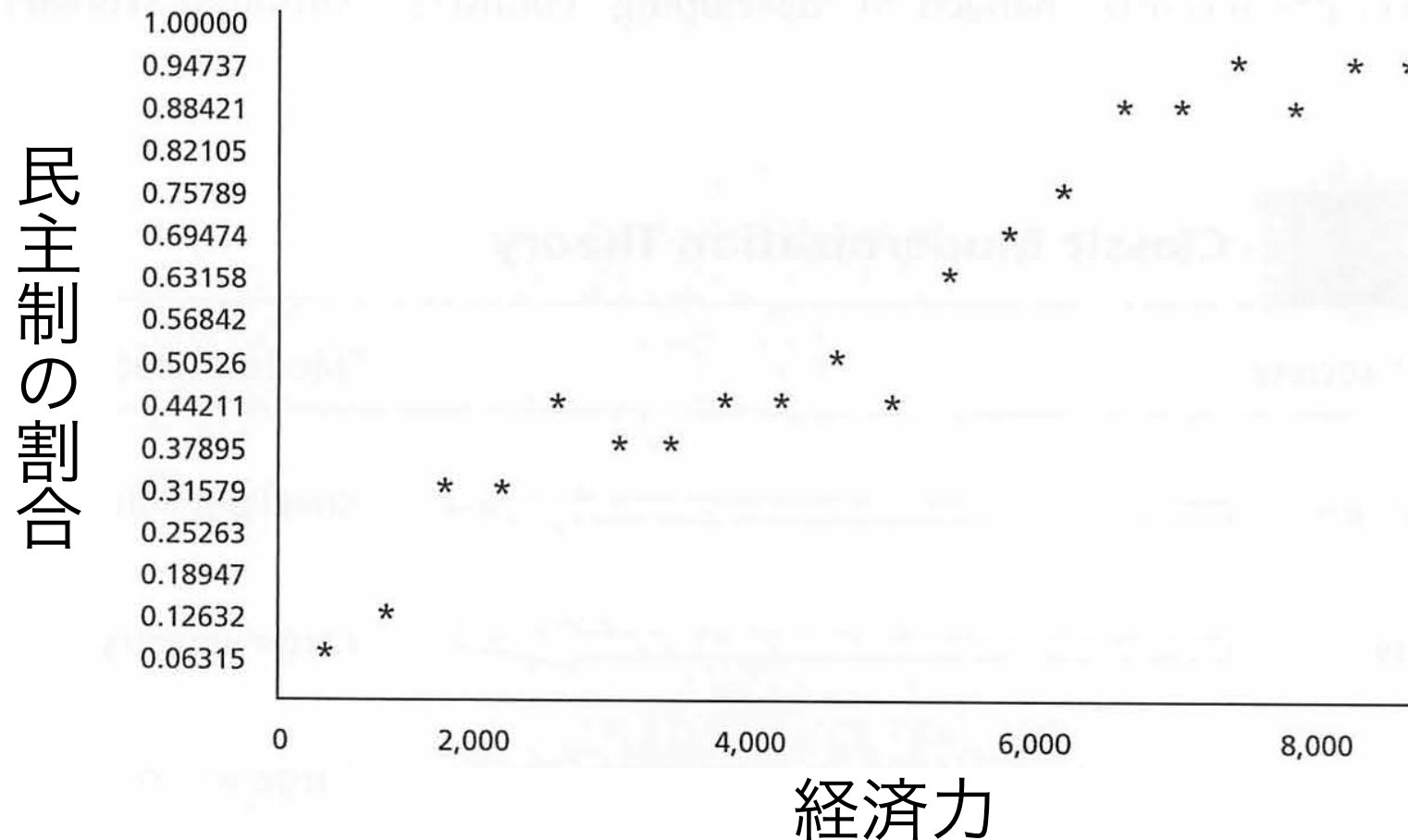
...

**26位：日本 (36,426)**

185位：中央アフリカ共和国  
(604)

(出典：World Bank)

# 経済発展の程度別にみた民主制の割合



出典：Clark, Golder, and Golder (2012: 174)

# 近代化論への批判

- 欧米至上主義？
- 直線的変化？
- 多様性の無視？
- さらなる発展？
- 近代国家にふさわしいからといって、なぜ民主体制をとるの？支配者にとって何が得なの？

# 生き残り理論 survival theory

- 経済発展によって、民主体制の採用が増えるわけではない
- 民主体制をとるか独裁体制をとるかは、経済発展の程度によらず、ランダムに決まる
- 豊かな国では民主体制が崩壊しにくい（生き残りやすい）
- ➔ 結果として、豊かな国で民主体制の割合が大きくなる

# なぜ生き残るの？

## 経済的側面から見た民主体制と独裁体制

- 民主体制

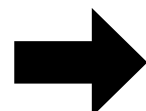
- どんな人にも、最低限の生活・権利が保障されている

- 独裁体制

- 支配者グループの仲間は大きな利益を得るが、その確率は低く、多くの人は何の保障もない生活を強いられる

# 豊かな国

- 現状では、人々が豊か
- 独裁体制になると
  - 独裁者集団に属し、今以上に豊かになる（低確率）
  - 独裁者集団に属さず、貧しくなる（高確率）

 民主的体制を守る！

# 貧しい国

- 現状では、人々が貧しい
- 独裁体制になると
  - 独裁者集団に属し、豊かになる（低確率）
  - 独裁者集団に属さず、今と変わらず貧しいまま（高確率）

 独裁的体制に賭けてみる！



# 豊かな国で民主的体制が生き残る

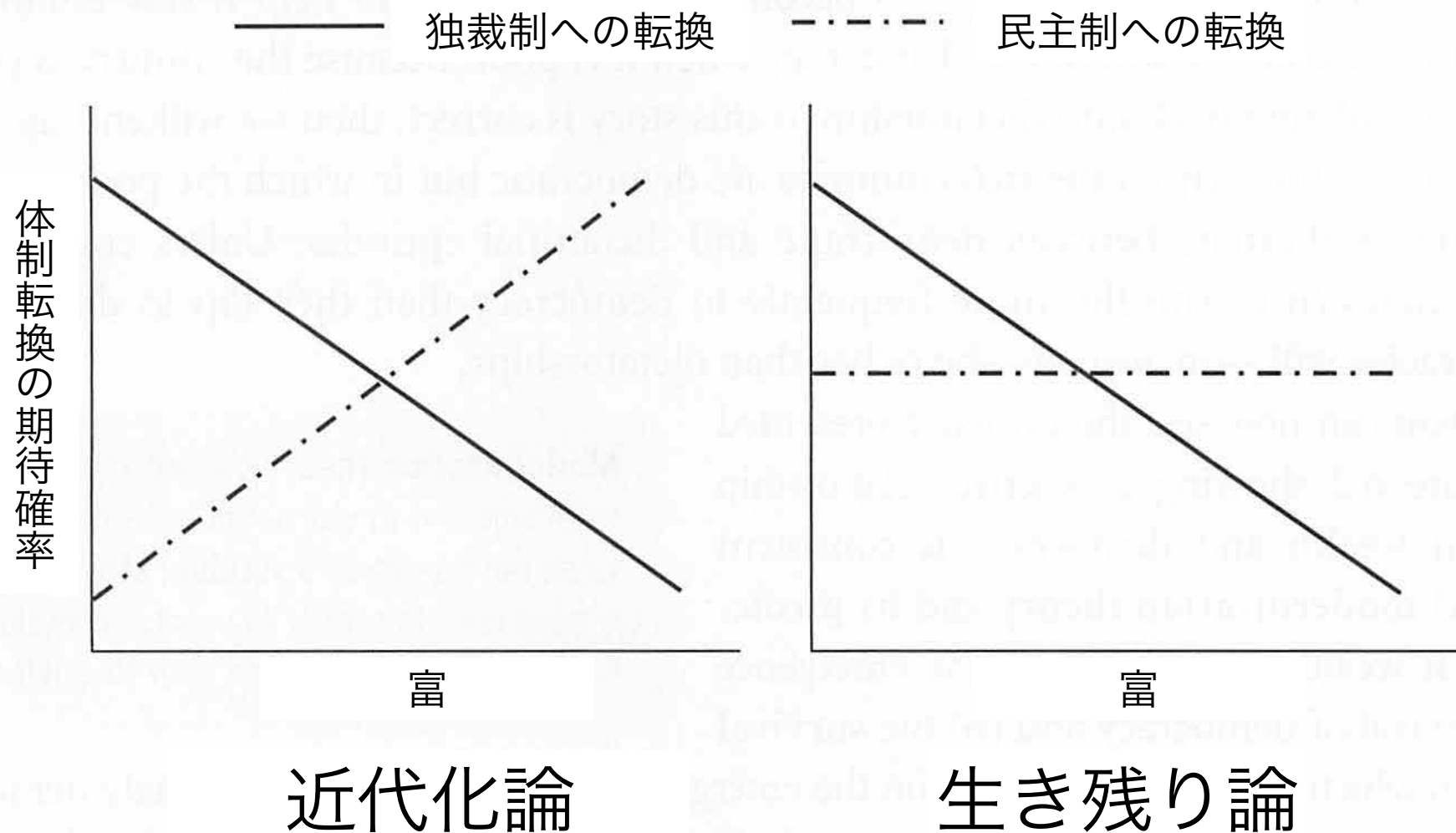
- 一人当たりGDPが高い国（豊かな国）では、独裁的体制を採ると損する可能性が高い
- 一人当たりGDPが低い国（貧しい国）では、独裁的体制を採るリスクが低い

➡ 豊かな国でデモクラシーが生き残りやすい

# 近代化論 vs 生き残り論

- 経済発展と民主制の割合の関係を見る限り、  
どちらの理論も正しい
- ➔ 同じ現象を説明できる理論は複数あり得る
- 競合する理論は、ある共通性を持ちながら、  
ある面では違いを持つ

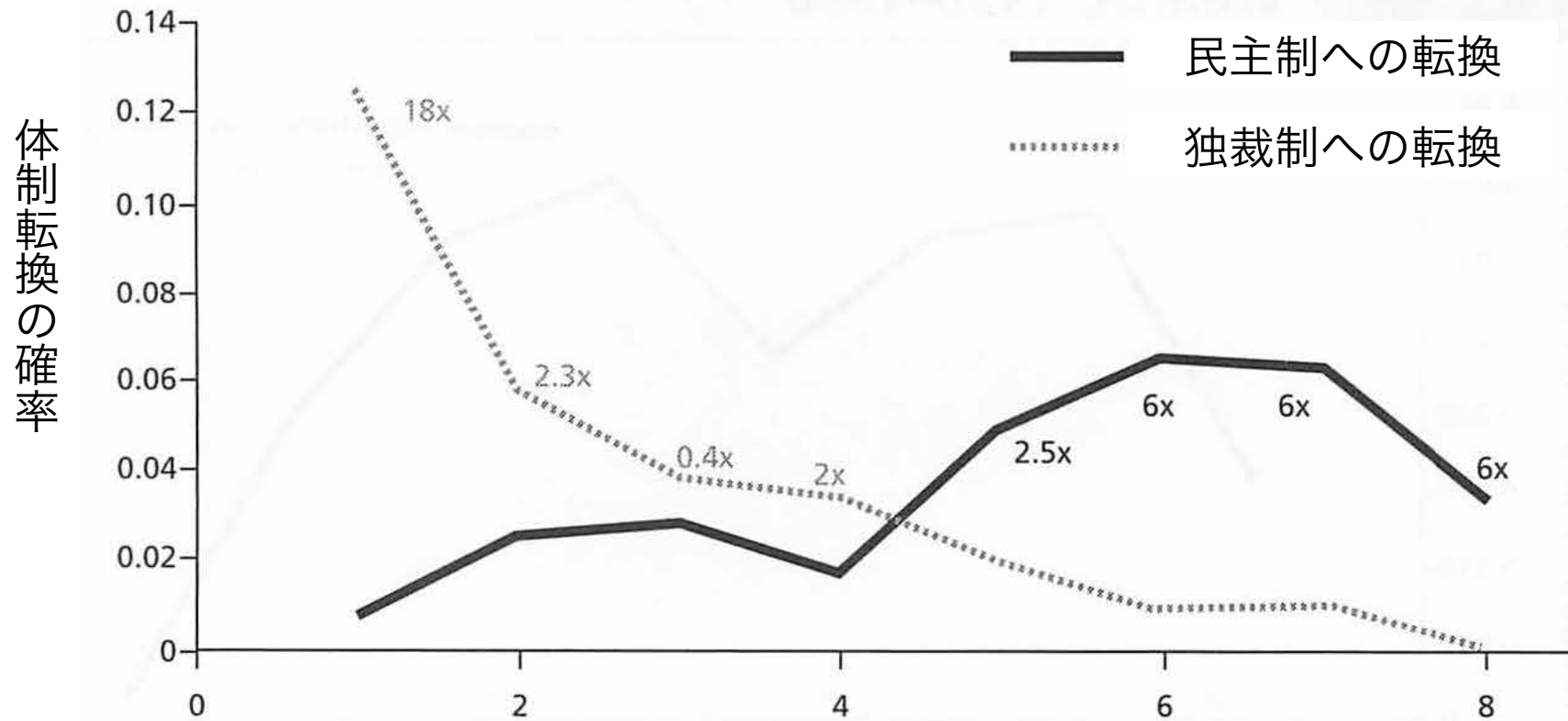
# 富が増えるにつれて、体制転換の期待確率は どう変化する？ 近代化論 vs 生き残り論



# 近代化論と生き残り論の予測

	近代化論	生き残り論
1	民主制は、貧しい国よりも豊かな国に多い	
2	所得が増えると、独裁制への転換は少なくなる	
3	所得が増えると、民主制への転換が多くなる	所得が増えても、民主制への転換は多くなならない
4	国が豊かになったとき、体制転換が多くなるか少なくなるかはわからない	国が豊かになると、体制転換は起こりにくくなる

# 富の関数としての民主制への転換と 独裁制への転換の確率：1950-1990



富：一人当たりGDP (in thousands of 1985 PPP U.S. dollars)

注：図中の数字は、ある国が一定の方向（例えば、独裁制→民主制）への体制転換が他の方向（民主制→独裁制）の何倍起こり易いかを示している。例えば、グレーの「2x」は、一人当たりGDPが約4000ドルの国では、独裁制から民主制への転換よりも民主制から独裁制への転換のほうが「2倍」起こり易いことを示している。

出典：Clark, Golder, and Golder (2012: 183)

# 民主制へ転換する確率は、 GDPとともに上昇する！

- 一人当たりGDPが\$2,000以下だと、独裁制への転換は、民主制への転換の8倍起こりやすい
- 一人当たりGDPが\$6,000以上だと、民主制への転換は、独裁制への転換より6倍起こりやすい

# 結論1

- データを観察する限り、近代化論の主張が正しく見える

# 結論2

Yes

No

	近代化論	生き残り論
1	民主制は、貧しい国よりも豊かな国に多い	
2	所得が増えると、独裁制への転換は少なくなる	
3	所得が増えると、民主制への転換が多くなる	所得が増えても、民主制への転換は多くなならない
4	国が豊かになったとき、体制転換が多くなるか少なくなるかはわからない	国が豊かになると、体制転換は起こりにくくなる



# 近代化論

「経済発展する（国が豊かになる）と、デモクラシーになりやすい」

- 批判：経済発展するとデモクラシーになるのはなぜ？ **メカニズムが不明**
- 経済発展とデモクラシーを結びつける因果メカニズムを説明する理論が必要

# 近代化論の修正版

- 経済発展がデモクラシーに繋がるメカニズムを説明する
- 経済発展そのものではなく、経済発展に伴って生じる社会経済的な構造変化がデモクラシーに寄与すると考える
- 資源（石油、ダイヤモンド、鉱物）が豊富な国が独裁制になりやすい理由も説明する

# 近代化論の中心的議論

- すべての国が同じような発展経路を辿る
- 経済発展によって、産業構造が変化する
  - 特に、農業（伝統的産業）と生産・サービス業の比率が変化する

# 例) イギリスの近代化 (1)

- 農業の効率化 → 人手がかからない
  - 農民も地主も商業活動へ
  - 特に、羊毛へシフト

# 例) イギリスの近代化 (2)

- 17世紀までに、経済的権力が伝統的な農業エリートから、近代的な羊毛生産者・商人・金融家へ
  - 農業エリート
    - ▶ 資産は農地：容易に測定できる
  - 羊毛家
    - ▶ 資産は羊毛：測定が困難

# 例) イギリスの近代化 (3)

- 王が国民から税金をとろうとするとき、
    - 農業エリートは土地を隠せない (固定資産)
      - ▶ 王は容易に徴税できる
    - 羊毛家や商人は資産を隠せる (流動資産)
      - ▶ 徴税が困難
- ➔ 王 (独裁者) と市民の権力バランスが変化!

# 例) イギリスの近代化 (4)

- 王は、外国との戦争などを賄うために税金を取らなければならない
  - 農業中心の時代
    - ▶ 暴力による収奪が可能
  - 商工業中心の時代
    - ▶ 資産家（納税者）との交渉が必要
- ➔ 納税者の意見を反映するための議会（Parliament）が力をもつように

# 納税者が資産を隠せるようになると 何が起きるか？

- 王は、税金を無理矢理とることができない  
（どこに金があるかわからない！）
- ➔ 王は、資産家に金を貸してくれるよう「お願い」しなければならない
- 問題は、王が借金を本当に返すかどうか



# 信頼できる約束 (credible commitment) か？

- 約束（借金を返す）は守られるか？
- 約束をする側（王、独裁者）は、約束をするときには約束を守る気があるかもしれないが、約束の内容を実行するときには、それを守るインセンティブがない（守っても得しない）
- 約束をする側のほうが大きな権力を持っている
- 金を貸す側は、約束が守られないとあってしまう？

# 例) アルバイト

- 約束する側：雇用主
- 約束される側：バイトの学生
  - 約束「1か月働いたら、今月分の給与を来月払う」
  - 雇用主は、バイトを雇う時点では、仕事をしてほしいのでバイト代を払ってもいいと思っているが、来月（仕事が完了した後）はバイト代を払っても得しない
  - バイトの学生は、雇用主より権力が弱い
- 問題：雇用主の約束が「信頼できる約束」だと考えてバイトしますか？

# 「信頼できる約束」問題の 3つの解決策

## 1. 履行可能な契約を結ぶ

- バイト代が支払われなければ、裁判所に訴える

## 2. 関係を繰り返す

- バイト代が支払われなければ、次の月は働かない

## 3. 権力バランスを変更する制度の構築

- 労働組合を結成し、バイト代が支払われなければ、ストライキを実行する

# 「信頼できる約束」 問題の解決が 困難な例（1）：イラク

- イラク：スンナ派とシーア派が対立
  - 2003年、アメリカがイラクに侵攻し、シーア派中心の政府を樹立
  - シーア派は、「スンナ派を抑圧しないこと」を約束し、スンナ派に武装解除を求める
- ▶ あなたがスンナ派のメンバーならどうする？

# 「信頼できる約束」 問題の解決が 困難な例（2）：南アフリカ

- 1994以前の南アフリカ：人種隔離（アパルトヘイト）政策
- 少数の白人が多数の黒人を隔離して支配・抑圧
- 黒人は、「白人からあまり富を奪わないこと」を約束し、民主化を求める
- ▶ あなたが白人ならどうする？
- ▶ 結局は民主化した → なぜ？

# 退出、抗議、忠誠 (Exit, Voice, and Loyalty)

- アルバート・ハーシュマン  
が提示した理論
- 様々な政治状況に応用可能



**Albert O. Hirschman  
(1915-2012)**

# 望まない変化にどう対応するか

- 自分が望まない変化が起きたとき、それにどう対応するか？
- 3つの選択肢
  - 退出する (exit)
  - 抗議する (voice)
  - 忠誠を示す [変化を受け入れる] (loyalty)

# 選択肢1：退出する (Exit)

- 自らの環境が悪化してしまうことは認め、新しい環境に移行する
  - 例：学食の「日替わり定食」が値上げされた  
→ 値段が安い別の店で昼食をとる



# 選択肢2：抗議する (Voice)

- 環境が悪化したとき、元の状態に戻すよう抗議する
  - 例：「日替わり定食」の値段を元に戻すよう学食に抗議（お願い）する

# 選択肢3：忠誠 (Loyalty)

- 環境の変化を受け入れ、いままで通り行動する
  - 例：値上がりしても、学食の「日替わり定食」を食べ続ける

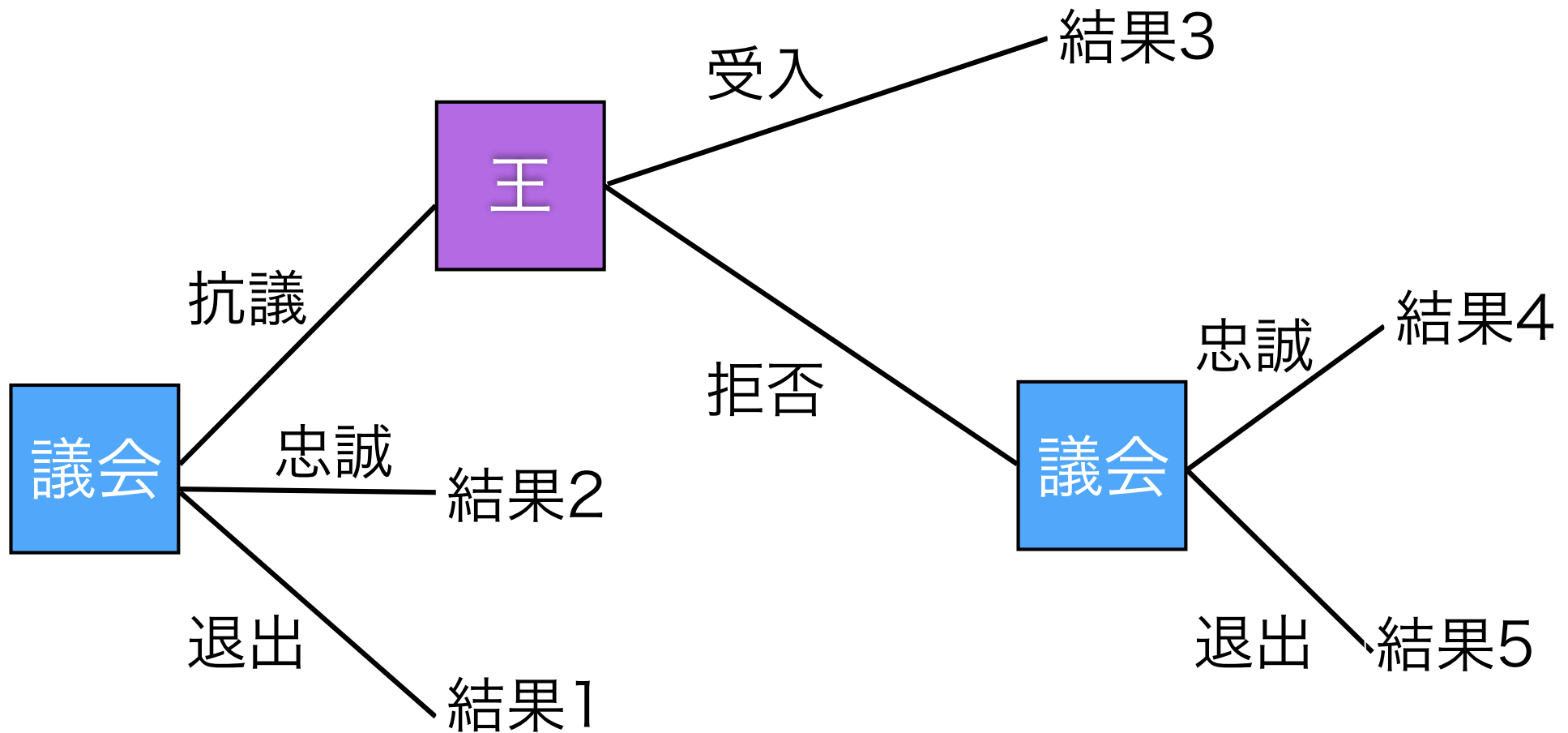
# 「信頼可能な約束」問題と 「退出・抗議・忠誠」ゲーム

- 王様（独裁者）が無理に税金を徴収しようとした（資産を没収しにかかった）とき、それに対峙する議会（国民）には3つの選択肢がある
  1. 資産を王から守るため、経済活動から撤退する（退出）
  2. 王に資産の没収をしないよう訴え、代わりに経済活動の継続を約束する（抗議）
  3. 王に資産を没収されても、それまでどおりの経済活動を続ける（忠誠）

# 抗議に対する王の対応

- 議会から王に対する「抗議」の内容：王の徴税権を制限する
- これに対する王の対応
  1. 制限を受け入れる
    - ➔ 議会（納税者）は約束通り経済活動を継続する
  2. 拒否する
    - ➔ 議会は、退出か忠誠かを決定する

# 王 vs 議会の退出・抗議・忠誠ゲーム

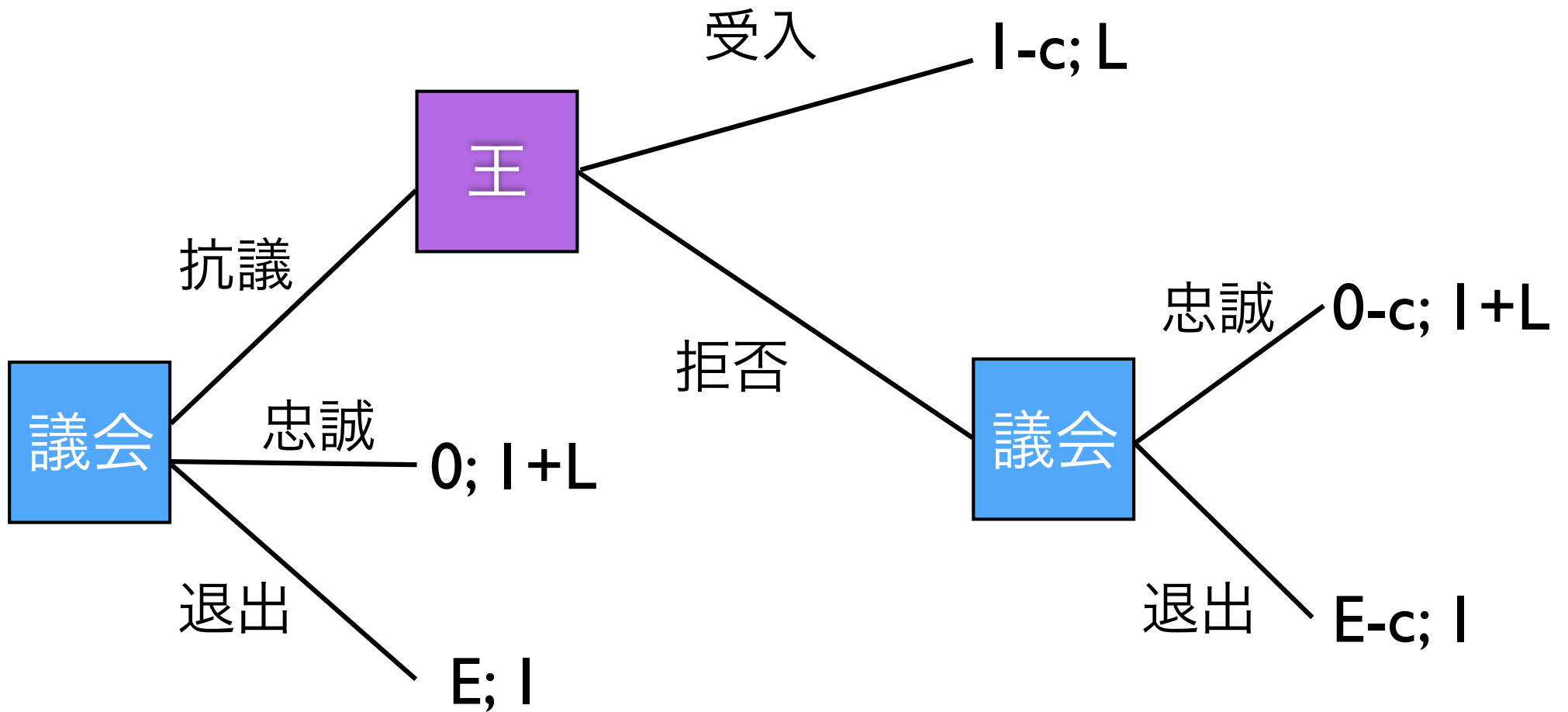


# 結果を利得で考える

結果	内容	議会の利得	王の利得
1	無制限政府 & 経済の停滞	$E$	1
2	無制限政府 & 経済成長	0	$1 + L$
3	制限政府 & 経済成長	$1 - c$	$L$
4	無制限政府 & 経済成長	$0 - c$	$1 + L$
5	無制限政府 & 経済の停滞	$E - c$	1

$E = \text{exit}$  で得られ利得、 $L = \text{loyalty}$  で得られる利得、 $c = \text{抗議に伴うコスト (cost)}$

# 王 vs 議会の退出・抗議・忠誠ゲーム

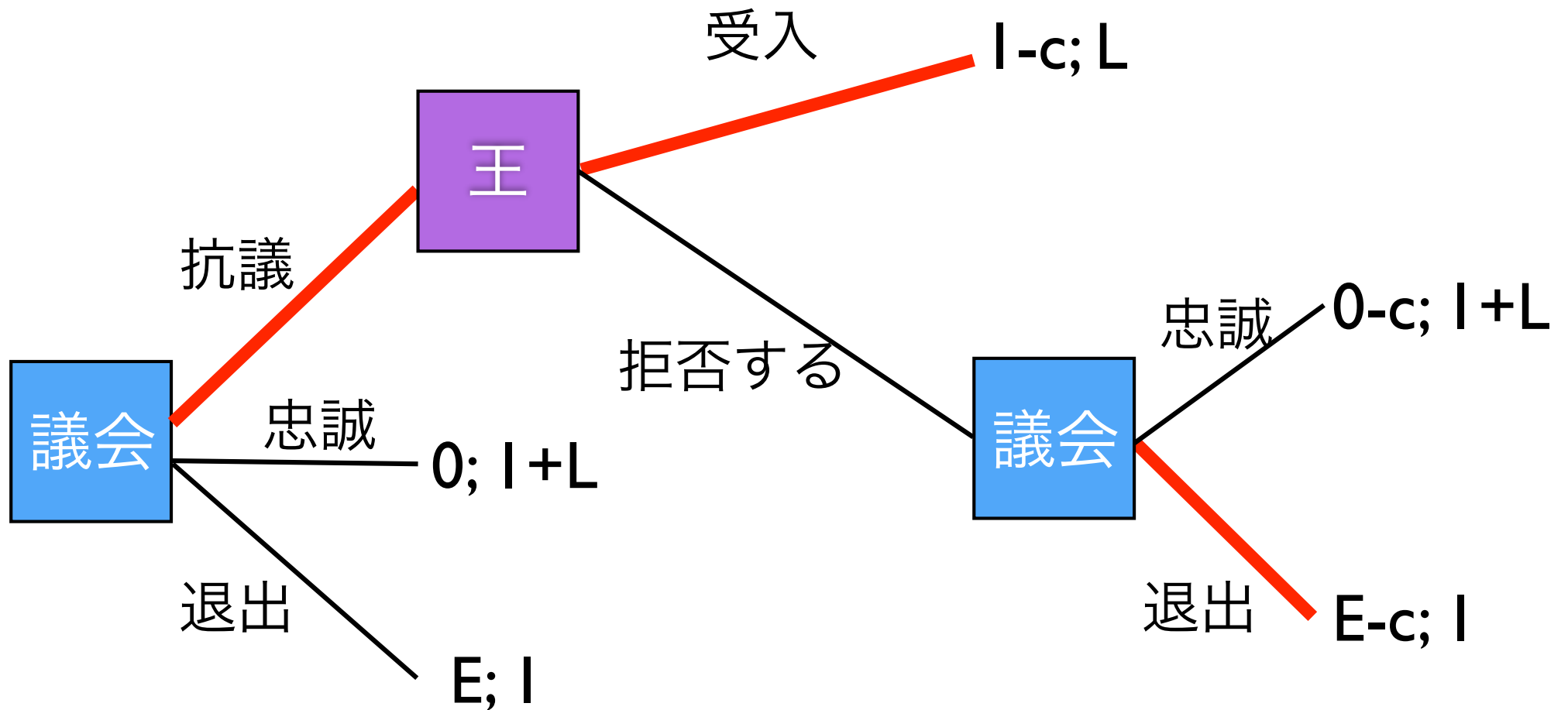


# L と E

- L : 王が議会に依存しているかどうか
  - $L > 1$  なら王が議会に依存
  - 王は議会が税金の徴収を認めてくれないと戦争できない :  $L > 1$
- E : 議会にとって退出は実行可能な選択肢か
  - $E > 0$  なら実行可能
  - 近代化によって、資産が流動的になり、退出が可能に :  $E > 0$



# 王 vs 議会の退出・抗議・忠誠ゲームを解く： $L > 1$ & $E > 0$ の場合



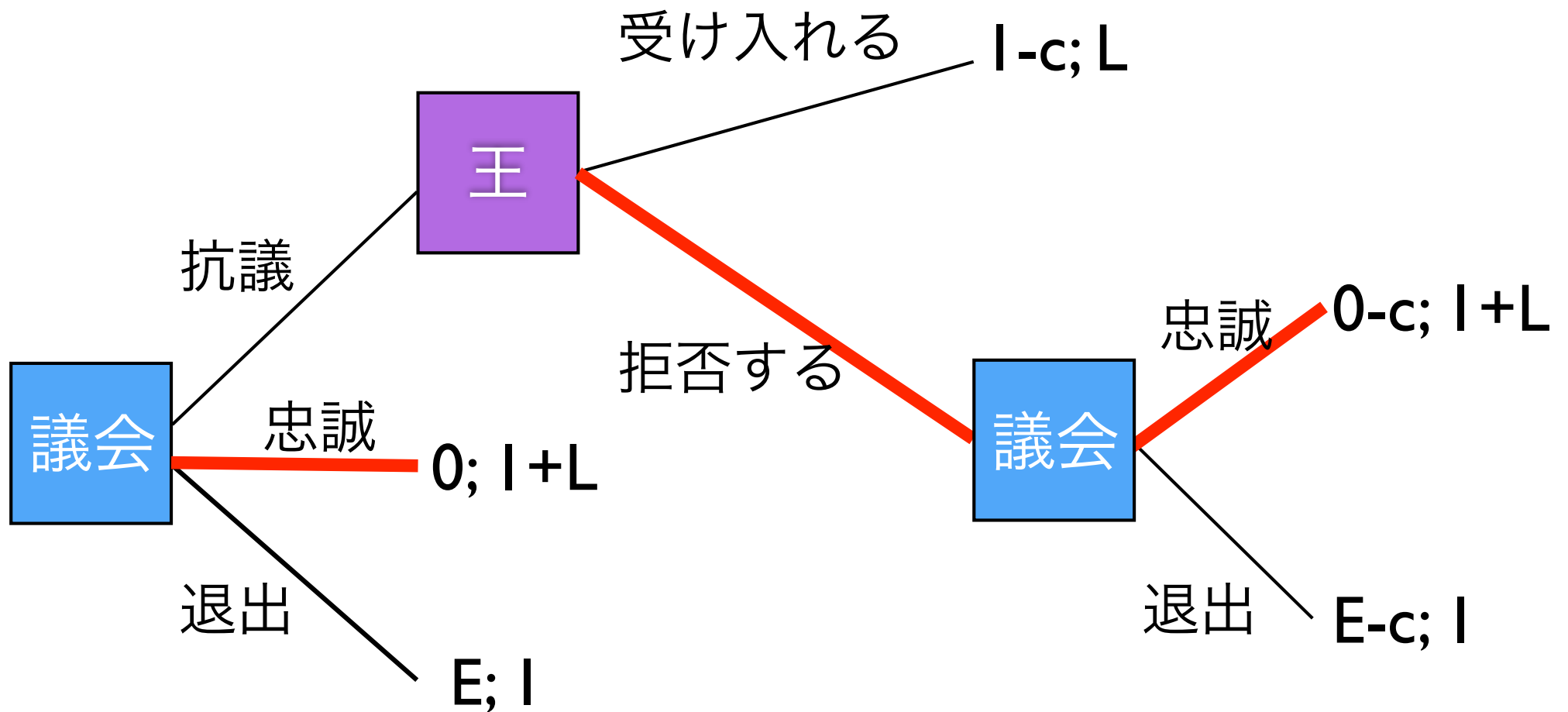
\*  $1-c > E$  すなわち、抗議のコストが十分小さいとき

# 資産が固定的なら？

- 経済発展する前：農業中心
- 資産が固定的
- したがって、議会にとって退出は実行可能な選択肢ではな（農地を持って国外に逃げることはできない！）

→  $E < 0$

# 王 vs 議会の退出・抗議・忠誠ゲーム を解く： $L > 1$ & $E < 0$ の場合



# 王が自立していたら？

- 王が自立している場合、ゲームの結果はどうなる？
  - 王が自立： $L < 1$
- ▶ 各自で確かめること

# ゲームの結果

		王	
議会		自立 ( $L < 1$ )	税金に依存 ( $L > 1$ )
退出可能 (流動資産, $E > 0$ )		貧しい独裁制	豊かな民主制
退出不可 (固定資産, $E < 0$ )		豊かな独裁制	豊かな独裁制

# 退出・抗議・忠誠ゲーム によってわかること

- 経済発展が進む前：資産が固定的なため、無制限政府（独裁体制）に
- 経済発展が進んだ後：資産が流動的になり、制限政府（民主体制）に

# 民主体制への転換の鍵

- 経済が豊かかどうかそのものではなく、資産が流動的かどうかが鍵
- 豊かでも、資産が固定的なら民主体制になりにくい？

# 天然資源の呪い (the resource curse)

- 天然資源（石油、ダイヤモンド、鉱物）が豊富な国は、豊かだが、独裁体制が維持されている
- 資産が固定的だから！



# 外国からの援助 (foreign aid) とデモクラシー

- 貧しい国：多くは独裁体制
- ▶ 「経済支援 → 経済発展 → 民主体制への転換」？
- No!
  - 外国からの援助は、独裁政府へ
  - 政府が国民に依存しなくなる (Lが小さくなる)
  - 豊かになるかもしれないが、民主体制への転換が  
起こりにくくなる

# まとめ

## 経済発展とデモクラシーの関係

### 経済発展

- ➔ 農業中心から商工業中心の社会へ
- ➔ 資産が流動的に
- ➔ 税金の徴収が困難に
- ➔ 納税者の権力が増大
- ➔ デモクラシーへ